

## 行事予定

9月9日(土) 龍雲寺ダンマトーク  
横田南嶺老大師様  
9月23日(土・祝) 秋季彼岸会  
10月19日(木) 教区発展拡充大会  
12月31日(日) 除夜の鐘  
2024年  
1月7日(日) 大般若会



### 龍雲寺墓地について

現在、業務用ゴミ回収の分別がとても厳しくなっております。ビン・缶・ペットボトルなどの「燃えないゴミ」は、捨てずにお持ち帰りください。地域の方々にご迷惑をおかけしないためにも、ご理解ご協力のほど何とぞよろしくお願いいたします。

龍雲寺総代世話人・龍雲寺

### 花園会費のお願い

龍雲寺では毎月の「花園」の発送にともない、年額1,000円の花園会費をいただいております。お寺にお越しいただいた時などにおさめていただければ幸甚です。

城南信用金庫 駒沢支店  
普通 601772  
宗教法人 龍雲寺 宛

※こちらの口座は花園会費専用となっております。



野沢稲荷神社さま お神輿来山

## 編集後記

○暑過ぎる毎日ですが皆様いかがお過ごしですか? ○七月末の龍雲寺盆踊りは環七の、お寺の駐車場で開催され三千人位の方々が来られました。盆踊りは、お祭りと間違えられている事が多いですが、お盆の、ご先祖様をご供養する、お寺の行事です。本堂で子ども会や大人の方々が盆踊りの練習をしていました○今年のお彼岸会は久しぶりに、おはぎを作る予定です。猛暑の中、大きな釜で大量の大納言を薪で炊きます。大納言が煮詰まるとマグマの様にグツグツと煮え熱いです。火事と間違えられるので煙には要注意です。私は実家の寺で、五右衛門風呂で育ったので火を燃やすのは上手です○妙心寺と五山送り火の旅は台風で十五日は終日、新幹線がストップで前日に京都入りしました。花園会館ではお写経、写仏、匂い袋の講習会をして御詠歌の方々は練習をしていました。お送り火も屋上から椅子席で綺麗に、ゆつくり拝めました。法堂でのお精霊送りの法要の時に、御詠歌をお唱えさせて頂きました。十四日の新幹線は九分、帰りは三分遅れただけで空席も多く楽でした。来年は是非ご参加下さい○雨が降らず街路樹も庭の木も枯れ始めています。皆様も近くの植木に、お水をあげて下さい。草木が生き返りますので、お願いいたします。私は毎日お風呂の残り湯を洗濯に使い、その残りを草木にあげています○まだまだ猛暑が続きます。水分と塩分の補給とクーラーを上手に使用して熱中症対策をして下さい。コロナウイルスの感染者も増えていきますので気を付けて下さい。お元気で。 要子

## 臨済宗妙心寺派

# 龍雲寺 花園会報

## 二〇二三年 秋彼岸号

監修／細川 晋輔 編集／細川 要子

〒一五四一〇〇三  
東京都世田谷区野沢三三八一

TEL〇三―三三二―二二三八  
FAX〇三―三三二―一八八六三

野沢龍雲寺

検索

## ご挨拶

住職 細川 晋輔

秋のお彼岸を迎えます。観測史上はじめてという言葉どおりの猛暑の中、それでも朝晩に秋の到来を感じる季節となりました。檀信徒の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。彼岸はまさに彼岸に到るための修行期間です。その修行の一つに「精進」というものがあります。「精進」とは「今なすべきことを努力してなせ」ということに他なりません。

先日、終末期医療に従事されているお医者さまと話をする機会がありました。その中で「スピリチュアルペイン」という言葉に出会ったのです。その意味は「死を目の前にした終末期の患者が感じる、自己の存在と意味の消滅(生の無意味、無価値、空虚など)から生じる苦痛のこと」です。例えてみると「こんなことしても仕方ない」「早く楽にして欲しい」「私の人生はなんだったんだ」「これから私はどうなる?」などというように。つまりは、未来が見えないことからくる苦しみです。

このような苦しみを抱えた患者さんに「今なすべきことを努力してなせ」という言葉をかけるのは、とても難しいことであると私は痛感しました。自分自身の心がけの問題ではなく、努力して何をすべきかがわからないからです。そんな折、毎日更新されている鎌倉の円覚寺様のブログでこのような素晴らしい言葉に出会い、光をいただきました。これこそ「精進」の教えの本意であるように思うのです。

## 令和五年 秋季彼岸会のお知らせ

令和五年九月二十三日(土・秋分の日)

午後十二時 御詠歌奉詠

午後十二時四十五分 法話 本山派遣布教師

午後一時三十分 法要

※バラ園駐車場がなくなったため、駐車には限りがございます。使用できない場合もございます。お越しの際は、公共の交通機関をご利用くださいませ。

※お塔婆を事前・事後に取りに来られる方は、葉書に明記ください。※当日は法要終了後のみ、お渡しさせていただきます。

円覚寺管長・横田南嶺老大師